

「只見 移住物語」

民泊 ^{えんじゅ} 縁樹の家 / 「ほっとランド・フォレスト只見」 代表

【移住者のご紹介】

- ・お名前：松崎 顕 様 (64 歳)
- ・ご家族：美幸様 (妻 56 歳) ・長男 (独立 29 歳) ・次男 (独立 24 歳) ・長女 (21 歳)
- ・いつ：2017 年 1 月
- ・どこから：埼玉県 上尾市
- ・どこへ：布沢
- ・いましていること：民泊 縁樹の家 管理人、ほっとランド・フォレスト只見 代表
- ・まえにしていたこと：JR 東日本



民泊「縁樹の家」エントランス前にて

【始まり】【準備】

2016年11月末、60歳 誕生日の月末で、JR東日本を定年退職しました。JR発足時はメンテナンスを担当、その後 東北線の運転手となりました。ブルートレインや、電気機関車、コンテナを引っ張るといった仕事です。47歳の時に管理職になり山手線の運転手さんの管理などをしていました。高校を卒業してすぐ国鉄に入り 42年間「ポッポ屋」でした。

2011年7月の新潟・福島豪雨で只見線の鉄橋が5、6ヵ所 流されたのですが、発生 当時 私はそのことを知りませんでした。退職する2年前ですか、毎日新聞で当時の 町長 目黒吉久氏が書いたコラムを読みました。『災害があるとローカル線は復活できない。だが復活させるべきだ』という内容です。それを見て一つのローカル線が存続の瀬戸際にあることを知り、職場の仲間に「みんなで行ってみよう」と声を掛け、只見を訪れました。

もちろん只見線と言う存在は知っていました。しかし、災害で分断されていることは知りませんでした。いざ来て災害現場を観て回るとそれは酷いものでした。「何で、こんなになってしまったのだろう」と思いました。自然の猛威を目の当たりにし「ここ（只見線）で働いている後輩も同じポッポ屋じゃないか、何とかしなければ」という思いがこみ上げました。これが最初のきっかけです。

その日の宿を紹介してもらうために役場を訪ね、布沢にある「森林の分校 ふざわ」を教してもらいました。泊まってみると、いつの間にか「いいところだなあ」という話になっていました。布沢には、都会にはない自然の豊かさや美しさがありました。布沢を訪れたメンバーは、第二の人生を考えるような年齢でもあり、のどかな里山の風景の中で、自ずと「こういうところって、いいね！」という話で盛り上がり、やがてこれが家探しへと繋がって行きました。

田舎に住むと言うのは難しいことかもしれません。でも都会との行き来であれば地域の活性化へ貢献できるし、ここを訪れた人は楽しい経験が沢山出来る。お互いの良いところをシェアするために、ここに拠点を作ってはどうかと思いました。皆で楽しく飲み、食べ、地域にお金を落とす流れが出来ないものか、そのためにこの魅力を整え、維持して行く、そこに自分の与えられた時間、人生を掛けてみようと思いました。

もし、あのコラムに出会わなければ、あのままの状態でしたら、私は関連会社へ再就職し、65歳まで働き、社会人としての使命を終わらせていたと思います。あの災害は地域を破壊し、深刻なダメージを残しましたが、同時に「ポッポ屋」としての私の気概を奮い立たせ、ここに私を導きました。只見の自然の美しさ、豊かさに出会った私は、退職後の人生をここにかけようと決めました。

退職に伴う諸手続きを上尾で済ませ、移動準備を整えて2017年1月8日に只見に移り住み

ました。芦久保口に、ここから 1.5km 程離れた太田と夕沢という集落の分かれるあたりに、既に家を買っていたので、そこに移り、活動を始めました。

「縁樹の家」は、築 約 90 年の農家を改修した宿泊施設です。運営は「ほっとランド・フォレスト只見」が行い、私が代表、管理人をしています。資金は JR 同僚や、OB を中心に出資を募り集めました。出資者は 50 人位です。JR の OB、後輩の家族、子供たちが利用できる民泊施設として、また色々なことを体験してもらえることを目指して運営しています。料金は利用しやすいように 1 泊 3,000 円です。素泊まりにして、食事は自分たちでワイワイガヤガヤと作っています。現在は食事が提供できる調理機器、設備も整えてあります。しかし食事を提供するためには資格が必要となるのですが、この新型コロナウイルス渦で資格試験が実施できない状況で、落ち着くのを待っているところです。

「縁樹の家」が、いまの状態になるまでは、それは苦勞しました。1 階は、2016 年の秋にとりあえず住めるようになりましたが、2 階部分が未完成だったのです。いまは整理されたスペースが広がる 2 階ですが、昔の蚕の作業場がそのまま残っていたのです。お金を節約するため 1 階を施行してくれた建築屋さんに『素人でも解体はできますか?』と尋ねました。『出来ますよ』という答えを貰って、私と OB、いま一緒に働いている田中さんらで、2 階の壁や棚の撤去を始めました。しかし、ここは冬の作業はできませんので、2 年越しの作業を経て 2017 年秋までかかりました。

2019 年 3 月 27 日付けで民泊許可を得て、2019 年 4 月 1 日にグランドオープンしました。



縁樹の家 全景

【家族】

退職する年の秋と、ここが完成してから何回か、ここに妻を連れて来ています。妻は「なぜ、それほど大変なことをしなければいけないの」と心配をしていました。退職する直前に、私に癌が見つかった事も影響したかもしれません。自分は、自分の想いを伝え、今まで時間に追われ忙しく働いてきたので、第二の人生はここにかけたいと話しました。時間を必要としましたが、妻は理解してくれました。いまは「ここはいいところだから、頑張っ

【不安】

退職する年の2月に癌が見つかりました。最初は盲腸だと思って病院に行ったのです。診察を受け、その日のうちに手術を受けました。1週間後 検査結果を聞きに行った際、執刀医から虫垂癌だと宣告を受けました。「発見しにくく、放置しておく

運の良いことに執刀医が会津若松 竹田病院でインターンをされた方で、只見に行くなら紹介状を書こうということになり、竹田病院で定期検査を受けて、今年で4年半が経過しました。そこだけが気になるところでした。どこにしようと定期的に検査をしなければなら

【現在】

最初からのメンバー田中さんは、こちらに住民票を移しました。もう一人、昨年退職した築瀬さんは、まだ住民票は移してはいませんが「縁樹の家」に居住して、宿泊管理の担当をしています。今日は、お盆で檀家の集金があると言って、矢板（栃木県北部の市）に戻りましたが、私を含めてこの3人で「民泊」、「畑」、「田圃」をしています。

田圃は最初に分校前の棚田から始めましたが、陽のあたりが十分ではないので、去年の春から「縁樹の森」の裏手にある田圃も使い、今年は少しですが収穫できました。お米は「里山のつぶ」という品種です。

景観づくりも大切な仕事と考えていて、分校前の棚田、家周りの草刈りをしています。また今年 集落の人に相談して、桜の苗木を60本程植えました。

冬は、ほぼ除雪をして過ごしています。

【変化】

地域の方々が、私を受け入れてくれたことに本当に感謝しています。自然の豊かさに驚き、その中に居られることに本当に喜びを感じます。

移住して変わったことは、家族との関係がより良くなったことです。なかなか会えませんが、今までとは違った良い関係だと思います。家族と会うのが楽しみです。

1ヶ月に1回 お互いに行き来する感じです。このまえも妻に渡すものがあったので、会津田島の道の駅で待ち合わせをしました。館岩の先の前沢集落にまがりや屋のお蕎麦屋さんがあり、美味しいと聞き、そこでお蕎麦を一緒に食べました。その後 田島周辺を一周しました。

いまはお互いに、このような会い方しかできませんが、自分を支えてくれる家族との丁度良い距離が出来ています。会えば相手を思い合える関係です。

【将来】

時間に追われない、いまの生活が続くことが望みです。

縁樹の家の周りにはストーブ用の薪が積まれています。自分の家にもダルマストーブがあって薪を使います。山の中ですから、春になって雪が降らなくなると山に入ってチェーンソーで木を切って薪づくりをします。自分の持ち山ではなく、他の人の山ですが、木を切ってくれと言われれば駆けつけて、伐採して薪にします。これからも薪づくりが出来るように健康に暮らして行きたいです。

やりたいことは、やはり農業を極めたいですね。それは課題ですね。田圃をしていれば田圃に草を生やさせてはいけないとか、ちゃんと教わりたいです。

【不便】

暮らし始めて困ったことは、医療機関が遠いので少し不便を感じました。

でも病院はすべて予約制ですから、まあスケジュールは立てやすいです。

たまには会津若松に出て行くのもいいかと、買い物がてらに行くのも良いと思っています。遠回りして病院に行くとか、せっかくここ（只見）に来ているのだから、色々なものを見てみたいですね。家内も、仏閣を見るのが好きなので、会津三十三観音の一つ「中田観音」、一本の原木から彫り上げられた観音様ですが、拝観に行き、御朱印を頂くといったことをしています。

【健康】

健康面で注意していることは、お酒が美味しくないと感じたり、飲みたくないと思うときは体調の悪い時なので、そんな時は飲まないか、早めに寝ます。好きなお酒は焼酎です。皆で集まって飲むときは日本酒ですね。

【アドバイス】

新型コロナウイルス感染拡大で、こんな状況となって「田舎もいいな」って言う人もいるかもしれませんが、そんなに簡単なものではありません。これは来た人が一番わかっていることですが「人と人との関係がとても大切」なところですよ。お互いに助け合う気持ちがあり、そのような関係が出来ているので、これを理解して、溶け込んで欲しいと思います。

こちらに来た時から、せっかく来たのだから何か地域のお役に立てればと思っていました。都会にいたときはそんなことは考えたこともありませんでしたが、ここに来ると、みんなのために何かをしたいと思いました。いま私は明和地区の庶務を担当し、明和の新聞も発行もしているのですよ。

自らの経験から言えば機械類を、すぐ購入するのではなく、少しずつ増やすことが良いと思います。機械類は高いものですから、まずは借りて使ってみるのがいいと思います。今年 三反二畝（約 1,000 弱）の田圃を耕運機で耕しました。耕運機でするには広い面積でしたが、一生懸命やりました。あれやこれやと動いていると埼玉のOBがもう米を作らなくなったから田植機をくれるという話があり、さらには布沢の方からも田植機をあげるという話を貰いました。

*一反=990 m²、一畝=99 m²なので、三反二畝は 3,168 m²。

1 アール=100 m²なので、三反二畝は 31,6 アール。

もう一つ例を挙げると、何と『トラクター譲ってあげるよ！』って申し出を頂いたのです。それも田越し、代かき用アタッチメントを付いていて、驚くような値段で譲って頂きました。さらに『車庫が空いているから置いていいよ』って、そんなことまで言って頂きました。譲って頂いた方の家は、お子さんたちが、皆さん東京などへ行ってしまい、いまは高齢のお婆さんの一人住まいでした。お子さんたちが冬に戻ることもありますが、普段の雪降しは大変なので、私たちが除雪を行っていました。

改めて、人と人との助け合い、付き合いが大切だということを教わった気がします。

【生活】

ご近所とのお付き合いで心がけたこととは、先ず「挨拶」でした。最初は『お茶飲んで行け』って、そこから家に呼ばれる、そんな挨拶廻りをしました。

子育て環境では、これ以上の学校統合は可愛そうな気がします。そのような話を聞くこともあります。何とか食い止められないものかと思えます。この地区は子供が多く、子供を産んでここで育てようと頑張っている方も沢山いますので、少しずつでも、そのような方々を支えるという意味で、行政にもそれを優先で頑張ってもらいたいとは思っています。

私はよくセンターに立ち寄ることがあるのですが、子供たちは午後4時頃センターに寄り集まっていますね。すると、向こうから「こんにちは」って言うのです。東京や埼玉ではありえないことです。絶対にないでしょう。小さいコミュニティーだからかもしれませんが、普通に挨拶できるというのは、ちゃんとした教育がされているのだと思っています。人として基本の教育がされていると思います。

大人だって全然知らない人に会っても「こんにちは」って挨拶をします。ここは松坂峠を超える車も通りますが、布沢への出入りは1本道なので、道を走る車はほとんどこちら辺の人ばかりなのです。車のナンバーを覚えるようにして、ナンバーを見て『あっ、誰々さんが来た!』って、手を振ったりしますね。

【印象】

移住して最初の印象はやっぱり雪ですね。あれは凄い。だけど、面白い。小さい時から雪が大好きでした。除雪は朝夕することもあります。でもだんだん雪は少なくなっています。私は布沢に来て4年目を迎えますが、雪は少なくなっている感じがしますね。

2020年8月14日 布沢 「縁樹の家」にてインタビュー
インタビュアー 移住コーディネーター 生天目 博